

京都市内観光拠点に於ける駐輪場景観の 現状と課題

藤本 英子

正会員 京都市立芸術大学教授 美術学部デザイン科 美術研究科 (〒610-1197京都市西強区大枝杵掛町
13-6)

E-mail: f-d612@nifty.com

2015年3月に「新自転車計画」を作成し「世界トップレベルの自転車共存都市」を目指し政策を進めてきた京都市では、観光客に使いやすい駐輪場づくりによる「自転車観光のみえる化」を今後進めていく。増加の一途をたどる外国人の訪問者も、自転車利用が増える中、本研究の目的は、景観先進都市としての京都市にふさわしい「観光拠点に於ける駐輪場景観のあり方」を明確にするものである。今回は市内の主要な観光拠点（寺社仏閣）15箇所について、駐輪環境の調査分析を行い、その課題を明らかにした。

Key Words : Landscape design, Bicycle, Sightseeing, Kyoto

1. はじめに

2016年12月の「自転車活用推進法」の設立を受けて、全国の自治体で自転車政策が進むが、京都市ではそれに先駆け、2015年3月に「新自転車計画」を作成し「世界トップレベルの自転車共存都市」を目指し政策を進めてきた。

国の観光立国政策の動きを受けて、京都市の「2017年京都観光総合調査」によると、2017年の1月から12月までの1年間に京都市を訪れた観光客数は5362万人で、5年連続で5000万人超となっている。そのうち外国人の訪問者推計は743万人と前年比12.4%増にまでなり増加の一途をたどっている。

その移動手段も観光バスから公共交通（自転車利用も含む）への移行があり、その中でも自転車観光は「サイクルツーリズム」として、法の設立以降全国的な広がりを見せているが、京都市でも自転車を移動手段とする観光客が増加している。

2. 現状調査の目的

京都市では観光客の激増による景観的な課題に、どう対応していくかが問われているが、観光拠点周

辺における駐輪環境の景観も、新たな景観課題になりつつある。

京都市「新自転車計画」の自転車施策5つの1つである「自転車駐輪環境のみえる化」では、主に駅中心の通勤通学者対応として、この10年で放置台数が30分の1になるなど、その成果を数値的には上げてきた。今後中心的に進める一つが「自転車観光のみえる化」であることを受けて、観光客に使いやすい駐輪場づくりがさらに求められている。

また一方、京都市は景観先進都市として、2007年に始めた「新景観政策」も見直しながら、その成果を上げてきている。駐輪場についてもこれまで、JR京都駅前と市役所前での地下を活用した大規模駐輪場の整備で、地上景観を守り、街中の駐輪場では周辺の町並み景観に配慮した外観を持つデザインで「富小路六角自転車駐輪場」などの整備を行ってきた。道路占用による路上駐輪場も、「御池通まちかど駐輪場」などで、緑化や格子状の柵の設置で周辺景観への配慮ある整備を進めてきている。

今後の観光拠点および観光拠点周辺の駐輪場の環境を、調査研究を行うことにより、「観光拠点に於ける駐輪場景観のあり方」を明確にすることを最終的な目的とする。

3. 調査の手法

(1) 調査方法

京都市の中心部にある主要な寺社仏閣15箇所の駐輪場調査を2019年7月に行なった。

調査① 情報サイト「京都よくばり自転車観光ナビ」(注1)での案内状況調査

調査② レンタサイクル事業者(京都市レンタサイクル事業者認定事業者)による市内駐輪場案内状況調査

調査③ 市内の主要な寺社仏閣15箇所の現場調査

(2) 調査内容

調査①では、その施設の駐輪場案内がされているかを確認するとともに、その情報に基づき現地を訪問した。調査②では配布の地図情報などを調査するとともに、その情報に基づき現地を訪問した。調査③では、現場の訪問により写真での記録と駐輪場の「視覚的な発見しやすさ」「物理的な入りやすさ」「停めやすさ」「施設としての景観」「利用状況としての景観」、その他情報などを調査した。

調査対象は下記の観光拠点(寺社仏閣)15箇所である。

伏見稲荷大社、東福寺、東寺、西本願寺、東本願寺、三十三間堂、南禅寺、平安神宮、銀閣寺、下鴨神社、上賀茂神社、金閣寺、龍安寺、仁和寺、北野天満宮。

4 調査結果と課題の発見

(1) 調査結果

調査結果を、表-1でまとめる。今回は調査①および②については、調査③のための資料として活用したにとどめ、ここではとりまとめを含まない。

寺社仏閣の観光拠点では、自転車利用が増加し駐輪場が求められた時、駐車場の中に設置するよう業界として進めているという。今回調査した駐車場の中での駐輪場は、単に駐輪エリアが分離されているだけで、駐輪のための設備が設けられていないところがほとんどであった。

調査した15箇所について、①視覚的な発見しやすさ、②物理的な入りやすさ、③停めやすさ、④施設としての景観、⑤利用状況としての景観、の5項目について、5段階評価を行なった。また、駐車場分離型か駐車場内部型かの別と、入り口での人的サポートがあるかどうかを整理した。

(2) 調査分析

調査結果より、それぞれの項目についての分析を行い、その課題発見につなげる。

① 視覚的な発見しやすさ

駐輪場の場所が現場でわかりやすいかどうか、この評価となる。レンタサイクル業者は、まずその施設の駐車場を探すように案内している。今回の調査でもほぼ半数が駐車場内部型となっているが、駐車場の案内サインはほぼどの施設にもあるため発見しやすいと言える。評価が高い伏見稲荷神社は、参道に案内サインがあり、ピクトも使い誰からもわかりやすくしている。評価の低い施設は、サインが存在しないところである。

表-1 京都観光拠点駐輪場評価

	伏見稲荷大社 (図-1)	東福寺	東寺	西本願寺	東本願寺	三十三間堂	南禅寺	平安神宮	銀閣寺	下鴨神社	上賀茂神社	金閣寺 (図-2)	龍安寺	仁和寺	北野天満宮
① 視覚的な発見しやすさ	5	1	2	2	1	3	1	3	3	2	3	3	2	1	1
② 物理的な入りやすさ	4	2	3	2	2	3	2	3	3	4	3	3	2	2	3
③ 停めやすさ	3	2	3	3	2	4	3	3	3	3	3	4	3	3	3
④ 施設としての景観	4	1	2	4	1	4	2	2	2	3	3	4	2	2	1
⑤ 利用状況としての景観	2	1	2	2	1	2	2	3	2	3	3	4	2	2	1
駐輪場分離型		○					○	○		○		○		○	○
駐輪場内部型	○		○	○	○	○			○		○		○		
人的サポート			○	○	○	○			○				○	○	

② 物理的な入りやすさ

場所がわかったとしても、広い駐車場の中で移動しにくい場合や、入り口が坂になっているなどで入りにくいものは評価が低い。

③ 止めやすさ

止めやすさは、路面の素材や、停める方向の表示の有無に関係する。単にエリアが決められているだけでは停めにくいこともある。止め方を表記していたのは、金閣寺だけであった。

④ 施設としての景観

駐輪場が、参道など観光客がメインで通る外部からは見えない場所に設置されている場合は、評価が高い。

ラックが設置されているところはなかったが、十三間堂だけが屋根付きであった。何の表示もなく、施設の人的サポートがないと位置がわからなかった3箇所は評価が低い。また、赤いコーンの使用や、放置防止の看板なども状況によっては景観としての評価は低い。

⑤ 利用状況としての景観

駐輪施設としての評価にかかわらず、実際に自転車が停められている状況の景観を評価している。止め方を図で示している金閣寺は、停められた状況も整い、評価が高い。何の表示もないところは、放置駐輪と変わらない状況となり、評価が低い。

(3) 課題について

今回の調査で得られた課題が多くあった。観光拠点の参道とは別の場所に、駐車場が設けられている場合も見られるが、公共空間からの視認性が景観課題になる場合も見られた。

駐輪場の位置がサインなどでわかりやすく示されている場合が、大変少ないことがわかった。駐車場のサインはあるが、その中に駐輪場が含まれることが表示されていない場合も多い。駐車場入り口で、人的なサポートがある場合も多いが、駐車場分離型では人的サポートもなく、明確なサインが求められる。

車と異なり出入り口の傾斜や、出入り口での車との交錯も危険を伴う。自転車の安全性に配慮した出入り口が求められる。

ラックなど駐輪設備はほぼ見られず、止め方に関しては自由に扱われている場合がほとんどで、乱雑な止め方となりやすい。特に駐車場内部型の場合は、単にコーンなどで区切られているだけの場合も見られ、乱雑な置き方となっている。路面も砂利や土など、安定して停めにくい場合も多く見られた。

5 今後の進め方

京都市内の主要な寺社仏閣の観光拠点について今回は調査を行なったが、この調査により課題がいくつか明確になった。今後さらにその他の京都市内の観光拠点調査を続けると共に、全国や海外での参考事例から、その解決策を探り、「観光拠点に於ける駐輪場景観のあり方」を明確にする。その後、具体的な施設案を検証していく予定である。

注1：京都市では観光客などに自転車観光を安全にスムーズに行なってもらうための情報サイト「京都よくばり自転車観光ナビ」を準備している。その中で各地域の駐輪場の案内も、利用時間などの情報とともに地図を交えて行なっている。

<https://ja.kyoto.travel/bicycle/>



図-1 伏見稲荷大社



図-2 金閣寺